

ロシアがテロを敗退させる一方で、アメリカは奇怪なショーに拍手している

【訳者注】こんな話は自分が聞いているものとは全く違う、と言われる読者は多いだろう。現に、数日前のアレッポ攻撃について、NHK ニュースは、ロシアとシリアによる蛮行として報道していた。あるアレッポの女性らしい人物は「私はアサド大統領を憎んでいる」と言っていた。これが本当のことかどうか、我々には判断できない。しかし、シリアの戦争についての全体的構図を、我々はわきまえておかなければならない——それは「ロシアに支援された主権国家と、外部の無法な強国によって動員された、野蛮な殺し屋傭兵の戦争」（4頁）である。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160509.pdf>

こういう説明を信用できないという人は、さらに大きな全体図、アメリカの起こす戦争そのものの本質を探究してみる必要がある。このブログの目的はそれである。個々の状況証拠から浮かび上がってくる全体像というものがある。その俯瞰図の中に、70年前の日米戦争が何であったかという問題も入ってくる。

なお、奪還されたパルミラの古代遺跡で行われた、ロシアの芸術家によるコンサートについては、ここをご覧ください。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160513.pdf>

Finian Cunningham

August 1, 2016, Information Clearing House; Sputnik



今週末の西側メディア報道で不思議なことは、シリアで進展している記念すべき勝利が、いかにほとんど扱われないかということである。シリア・アラブ軍とロシアの戦力が、この5年戦争の最終章を閉じようとしている。——そして西側メディアは、それを知りたくないよ

うだ。

実際、それより遥かに大きな扱いを受けているのが、ヒラリー・クリントンの民主党大統領候補としての指名である。クリントンが彼女の党大会で、必ず中東のイスラム主義テロリストを一掃してみせると宣言している間に、シリア軍とそのロシア同盟軍は、まさにその仕事を片付けつつあった。<http://sputniknews.com/middleeast/20160730/1043777884/russia-us-syria-aleppo.html>

シリア北方の都市アレッポ——2011年に戦争が始まるまではこの国最大の都市だった——は、ロシア空軍に支援されたシリア軍によって、完全に取り戻されようとしている。人道的回廊が設けられ、市民と、降伏した戦士たちが、この都市の東部に巣食う反政府軍への最終攻撃が始まる前に、逃げられるようになっている。

<http://sputniknews.com/middleeast/20160729/1043768753/aleppo-liberation-military-challenges.html>

<http://sputniknews.com/middleeast/20160730/1043779654/moscow-cairo-syria-aleppo.html>

この軍団は、不法に武装した集団の寄せ集めで、アルカーイダと友好関係をもつ、保護権をはく奪されたテロリスト集団も含まれている。西側政府とメディアは、この軍団のある者たちを“穏健派”とか“反乱軍”とか呼ぶことによって、冷笑的な言葉遊びをやっている。

<http://sputniknews.com/politics/20160729/1043758443/terrorist-attacks-europe.html>

例えば、CNN 報道はこう言う——「シリアとロシア軍は、包囲されたアレッポの町から人々が避難できるように、人道的回廊を開く予定だ、と両国の高官が、木曜日、話した。これは、シリア軍がこの都市を包囲し、反乱軍の補給ルートを遮断したと通告した翌日のことである。」

このよい響きの言葉“反乱軍”(rebel, 反政府軍)がここで使われているのは、この都市が過激派に攻め荒らされていたという事実を隠ぺいするためで、この者たちは、10歳の少年を含む、犠牲者たちの首を平気で切り落としていた。

<http://sputniknews.com/middleeast/20160720/1043349915/rebels-boy-beheading-outrage.html>

シリアとロシア軍が、アレッポの奪還で達成しようとしていることは、歴史的勝利と言ってよいものである。それは単に、政府の支配しているダマスカスにとって戦略的意味をもつシリアの第 2 の都市を取り返したという、象徴的な意味だけではない。トルコ国境に近い

めに、アレッポは、シリアの戦争全体を焚き付けた兵器と傭兵の、不法な流れの中心地になっていた。

アメリカとその NATO 同盟国、イギリスとフランスは、この地域のパートナーであるサウジアラビア、カタール、トルコと協力し、アレッポを、シリアのアサド大統領に対する政権転覆という、彼らの隠れた、汚い戦争の、陣営地に使っていた。

<http://sputniknews.com/middleeast/20160729/1043760340/russia-us-aleppo.html>

このシリアの政権交代という外国の陰謀のためにやってきた、死のカルトをもつ傭兵たちは、世界中のほぼ 100 か国から集まったもので、西側やアラブ諸国からも、ロシアのコーカサス地方からも来ていた。

多くの点で、アレッポは、政権転覆勢力のための最後のとりでを意味している。この先、数週間で、アレッポがついに落ちるとすれば、アメリカとその同盟国が、“民主主義のため”の蜂起と称して、政権転覆を目的として戦っていたこの対象国の、拷問のような苦しみが終わることを意味する。

ワシントンと、そのならず者国家仲間の、なんという犯罪であろうか！ 過去 5 年間に、ほぼ 40 万人が殺され、2,300 万の人口の半数近くが難民となった。ヨーロッパが直面している難民危機と、反動のテロリズムは、シリアをひっくり返そうとする、この外国の犯罪的陰謀を反響する出来事でもある。

<http://sputniknews.com/middleeast/20160729/1043738077/usa-kill-civillians-syria-iraq.html>

シリアへの、国家スポンサーによるテロ攻撃に対する勝利は、シリア人民や、その政府と軍隊の、粘り強さと勇気に対する賜物である。

そして、その勝利において、ロシアが恐るべき英雄的な役割を果たした。アサド大統領は、彼の国家を救うのに果たしたロシア軍の介入の、死活を分ける役割に、感謝の意を表した。同じ運命によって、アフガニスタン、イラク、リビア、といった他の国々は滅びたが、それらはすべて、米主導による政権転覆の陰謀の犠牲になったものだ。

ロシア大統領ウラジミール・プーチンが、2015 年 9 月末に、シリアを救済するための軍事力を送る決意をしたとき、形勢の逆転はすみやかで決定的だった。

<http://sputniknews.com/military/20160728/1043709043/su24m2-syria-hidden-motive-analysis.html>

東シリアにおいて、ジハーディストのネットワークに支配されていた、産業規模の石油密売ルートは、ロシア空軍によって粉碎された。彼らは、トルコ国家が便宜を図っていた、ジハーディストへの主たる財政支援をも断ち切った。それがまた、ラッカのテロリスト・センターを孤立させ、滅亡へ導いた。

シリア中央部の、世界級の古代建築遺跡をもつパルミラの奪還もまた、シリア軍とロシア同盟軍の、もう一つの記念碑的な勝利だった。テロリストから奪い返したこのローマ建築廃墟の中で行われた、ロシアの芸術家によるクラシック音楽コンサートは、気の利いた宣伝であるだけではない。それは、シリアの戦争が何であったのかを雄弁に物語るものだった。それは、**ロシアに支援された主権国家と、外部の無法な強国によって動員された、野蛮な殺し屋傭兵の戦争だった。**

今、進行中のアレッポ奪還の戦闘は、もう一つの——おそらく最後の——政権交代軍に対するシリアの戦いの歴史的なステージである。ロシアとプーチン大統領は、この歴史的勝利にかかわったことを誇りとすることができる。

とすると、西側メディアが、シリアで起こっていることを、無視しようとしたのは無理もないことだ。何年間も彼らは、奔流のようなウソと作り事を垂れ流し、“反乱軍（反政府軍）”は“暴虐な政権”に反対して、民主主義のために戦っていたのだと主張してきた。

今、シリアとロシア軍が、これら“反乱軍”の残党を追い詰めてみると、真理は否定しようもない。彼らはその本来通りの姿を見せた——それは、アメリカとその同盟国に指令されたテロリスト傭兵のネットワークで、今、彼らは最終的な敗北に直面している。

そこで、見たくない真実を避けようとして、また彼らの自身の、国家支援によるテロリズムとの共謀を隠すために、西側メディアは、否応なく、シリアやアレッポの戦いから、カメラを余所にパンすることになった。

彼らは、注意をそらすための新しい物語に向き直った——米大統領になる最初の女性としてのヒラリー・クリントンの“すばらしい”指名である。

この狂った話題転換作戦を典型的に表すのは、クリントンが、どうアメリカと世界をリードして、ジハーディストのテロを敗退させるか、という輝かしい物語である。

<http://sputniknews.com/us/20160729/1043748095/clinton-democratic-nomination-speech-analysis.html>

これは、米国务長官（2009 - 2013）として、シリアのひそかな政権転覆戦争を指揮し、アメリカ CIA の主導のもとに、テロリスト傭兵の唾棄すべき利用を指令した、あの同じクリントンである。

これこそ、ロシアが現在、米支援による“穏健派”テロ集団の壊滅とともに、最終的にけりをつけようとしている戦争である。ワシントンと特にクリントンは戦争を始めるかもしれないが、明らかに、その後始末をするのはロシアである。

にもかかわらず、クリントンが今週の民主党大会で、自分の支持者たちを喜ばせていた演説を聞くと、まさに天文学的な認識の食い違いに、啞然とせざるをえない。戦争屋が、世界平和と法と秩序の番人であるかのように振舞うとは！

このまさかと思う、馬鹿々々しい欺瞞を可能にしているのは、ひとえに、西側メディアが物語を変え、見方を歪め、事実を見えなくする、そのやり方である。

しかし反論しようのない事実は、ロシアとシリアが、西側の支援するテロ侵略に対する歴史的な戦争に、勝利しつつあるということだ。

西側メディアも、それを操作することができない。そのために彼らは、焦点を移動させざるを得なくなった。そして彼らは、ほっとする場所をどこに求めたか？ もちろんそれは——シリアに対する犯罪的戦争の仕掛け人の一人、ヒラリー・クリントン、そして彼女の、アメリカをロシアとテロリストから守るという約束である。